



クマ特集



クマが人を襲うニュースを今年はいくつも見た気がします。なかでも、クマに襲われながらも、目潰しでクマを撃退したおじいさんのニュースにはびっくりしました！キャラクターやぬいぐるみとしては、とってもかわいいクマですが、ほんもののクマは恐ろしい生き物でもあります。

人とクマの共存

雑誌『月刊ジュニアエラ '16.11』朝日新聞出版

「サイエンス」クマ対策犬(ベアドッグ)が大活躍」より

人里におりてきて、ごみを荒らしているクマ対策として、NPO法人「ピノッキオ」がおこなっている取り組みがクマ対策犬(ベアドッグ)。クマの臭いを察知する特別な訓練を受けた犬で、鋭い鼻と耳を使い、クマのいる場所をつきとめ、クマを森へ追い返すのだそう！なるべく駆除はせず、「人とクマの共存を図っていこう！」というのがNPO法人「ピノッキオ」の考え方なんだって。人の安全は最優先でももちろん大事ですが、危害をあたえるクマだっていのある野生動物...付き合い方はむずかしいですね。



もしもクマに遭遇してしまったら...

『クマにあったらどうするか アイヌ民族最後の

狩人 姉崎等』姉崎等・片山龍峯著 ちくま文庫 2014

姉崎さんが話したものを片山さんが聞きとる、インタビュー形式。北海道に生息するヒグマをこれまでにたくさんしとめ、クマの心を知り尽くしたアイヌ最強のクマ撃ちの姉崎さんだからこそわかるクマのことやクマの対処法！（自身も何度か危険な目にあったこともあるんだとか...。）『雑誌『BE-PAL'16.08』小学館 別冊付録「アウトドア 危機一髪！脱出マニュアル」のなかにもクマに遭遇したときの対処法が出てきます！いざというとき役にたつかも！



【番外編】実はくまモンは「クマ」ではなかった?! 『朝日新聞』2016年10月19日付朝刊&10月20日付朝刊より
熊本県のゆるキャラとして、あまりにも有名なくまモンですが、実は「クマ」ではないんだそうです！熊本弁で「熊本の者（モン）」という意味なのだそう。熊本には野生のクマはおらず、設定としてはクマではないんですって！ただ、中国では「熊本熊（シュンペンシュン）」と「クマ」として、フェイスブックの非公式アカウントが大人気みたい！（日本の公式アカウントよりもフォロワーが多いのだとか...。）熊本地震から半年、あちこちを疾走し、復興を支えてがんばっていますね！松蔭にも2度訪れてくれました！意外と小さくてスリムでかわいかった～！そんなくま蒙の本も図書館にありますよ！

クマがでてくるおはなし

『レプリカたちの夜』一條次郎著 新潮社 2016

動物のレプリカ製造工場に勤める往本は、残業中の深夜、動くシロクマを目撃する。このシロクマは本物なのか？往本は工場長に呼び出され、この謎の動くシロクマの正体を内密に探るよう依頼される。物語がすすむにつれて、本物なのかレプリカの世界なのか...その境界線はあいまいになっていき、気づけばあなたもいつのまにか混沌とした世界の中へ迷い混んでいるはず！それにしても真夜中に動くシロクマ...不気味です！



『兵士になったクマ ヴォイテク』ビビ・デュモン・タッグ著

長野徹訳 フィリップ・ホプマン絵 汐文社 2015

第二次世界大戦はじめ、ポーランド兵の新兵として迎え入れられたのは、小さなクマでした。ヴォイテク（笑う兵士という意味）と名付けられたそのクマは、飼主である兵士、スタニスワフ、ピョートルとともに、戦場におもむき、砲弾を運び、勇敢にたたかいました。戦場にクマ？相手国兵士も驚く、このお話、本当にあったお話なんです。戦場という重たい状況のなかでのヴォイテクの無垢な愛らしさはきっと兵士たちにとってのつかのまの癒しだったんじゃないかなあ。



『公開処刑人 森のくまさん』堀内公太郎著 宝島社文庫 2012

あるひ～もりのなか～くまさんに～であった～と歌いながらやってくる...レイプの常習犯やいじめに加担した教師など、裁かれても仕方がない人を次々と殺していく、公開処刑人森のくまさん。悪党ばかりを殺す森のくまさんは、ネットでは神としてあがめられるようになり...。いったいその正体とは？！



『疾風ロンド』東野圭吾著 実業之日本社文庫 2013

泰鵬大学医学部科学研究所から恐るべき病原菌をもつ生物兵器が盗まれた。犯人の要求は3億円。犯人は、その生物兵器をある雪山に埋めたという。目印は、埋めた場所の木にとりつけられたテディベア！しかし、肝心の犯人が早々に事故で死んでしまった！上司からこの生物兵器の回収を命じられた研究員の栗林は、息子をつれて犯人からの写真をたよりにその雪山があるスキー場へ回収にむかった！目印のテディベアを探し、スキー場を滑りまわる！はたして生物兵器は見つかるのか？！最後まで気を抜けないハラハラな一冊です。この冬実写映画化！



今も昔も変わらず愛されているテディベア

『テディベア図鑑The TeddyBear』ポーリーン・コックリル著 古田和代、満園真木、原若菜共訳 ネコ・パブリッシング2002
かわいい子から不気味な顔すぎて売れなかった子、カラフルな子...国や会社、時代によって形や色、表情、毛並み、素材さまざまなテディベアがこれまでつくられてきました。また第一次世界大戦によって（テディベアの工場は戦争中軍需工場として使われていました。）物資が思うように手に入らなかつたりしたことからうまれたものもありました。1994年に11万ポンド（当時日本円で1800万円）で落札された世界一高価なテディベアものっています。あの柔軟剤で有名なファーフ（スナッグル）もいますよ！

『テディベア入門』真野朋子著 晶文社 1993

テディベアていったいどこの国のもの？テディベアの生みの親はだれ？テディベアの名前の由来はアメリカの第26代大統領セオドア・ルーズベルトの愛称「テディ」で知ってた？テディベアの歴史から、あなたの持っているテディベアはどんなテディベア？テディベアの誕生日（おうちに来た日）から占う「テディベア星座占い」もありますよ。



クマの写真

『クマよ（たくさんのふしぎ傑作）』（絵本）

星野道夫文・写真 福音館書店 1999

あるTV番組の撮影企画で訪れたロシアの地で星野さんは撮影中、ヒグマにおそわれ、命をおとしてしまいます。そんな星野さんがこれまでにおいかけたクマたちをおさめた1冊。遺稿として残された星野さんの言葉がクマに問いかける！生涯をかけてとらえた星野さんのクマの写真は生命力にあふれ、胸にくるものがあります。

『死ぬまでに見たい！絶景のシロクマ』澤井聖一構成

エクスナレッジ 2015

シロクマx絶景のなんともよければりな写真集！雪や氷ばかりの周囲に溶け込むためのカモフラージュであるシロクマの白い毛が、氷河の青、緑の草や色とりどりの花々をバックに見事に映える！また、シロクマの最大の魅力はなんといってもあの皮下脂肪たっぷりのおしり！（おなかや足にはあまり脂肪がつかず、ぜんぶおしりに集中するみたい！）でっぴりとした丸いフォルムはめでたいくらい愛しいですね。いま絶滅の危機に面しているシロクマの愛らしい美しい写真ながめてみませんか。松蔭のすぐ近くの王子動物園にもシロクマがいます。図書館では毎年1月ごろに王子動物園の裏側を見ることが出来るバックヤードツアーを募集します。近くでシロクマが見れるチャンス！ぜひ参加してみてください。



くまが出てくる絵本（小さいころに読んだ本もあるかも）や『パディントン』や『クマのプーさん』『こぐまちゃんえほん』などくまの人気キャラクターの本も図書館にありますよ！

